
それなら、王道らしい君の願いをかなえるよ。

菜風 龍鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それなら、王道らしい君の願いをかなえるよ。

【Nコード】

N5494Z

【作者名】

菜風 龍鬼

【あらすじ】

自称神の奴と人間が繰り広げるトリップ物語。

自称神の暇つぶし

トリップしてみようよ。

そして私の暇つぶしになればいいよ

霧賀^{キリガ} 雄奇^{ユウキ} 極普通の暮らしをしていた人が異世界へとワープして。

自称神 菜風^{ナカゼ} 龍鬼^{リユウキ} の暇つぶしに付き合うような話

「自分に不思議な力」

「リアル無双」

「剣、やりたくない？」

そんな言葉を言ってくる自称神と雄奇。 まあ、ありがちなトリップモノ

そんな世界でのんびーりと暮らしていくつもりが
結構重要な地位についてワッショイしてみたり、パン屋になっ
てみたり。

第一話「パッシーン」(前書き)

お久しぶりでもないけどお久しぶりです

または始めまして 龍鬼です

新作始まってみます

第一話「パッシーン」

電車を待っている霧賀。

音楽プレイヤーを出して弄っていると電車がくると放送が入る

「君、俺の暇つぶしに付き合って？」

突然脳に直接響く声、そして急に後ろから押された

落ちていく体、そして後ろを見れば誰もいない…が白いモヤモヤが一瞬みえ

次の瞬間電車の音がまじかに聞こえ、電車の光に目が眩んだ

そして、意識は消える。

「…死…死んだか？」

ツンツンツンツン…

「死んでません」

バシッ

霧賀はツンツンとしている手を払った

「お、生きて…ないけど生きてたか」

「お前誰だ、後生きてないって何だ」

「君は質問ばっかだねえー」

「そりやお前を俺は知らないからな。」

「そりやどうも、自己紹介しところか」

目の前にいた変な生き物（人間…だとおもっけど）が立ち上がった

「私…は 神様。 名前なんてものは無いよ」

黒の短髪が風に舞っている …… 寝癖の可能性大

「自称神、とても呼ぶ事にする」

「まあ、自称じゃないけどつかちゃんと人間みたいな名前ほしかったけど」

「しゃーないなあ…、それじゃ」

霧賀はジーっと自称神を睨む

「リュ…龍鬼」

霧賀はポツンとその名を言った

「リューキかいいい名だ」

「で、自称神」

「結局自称か。 まあいいけど何？」

「まず此処は何処」

「此処は君の今まで過ごしていた世界と未来の世界の狭間とても言う
おうか？」

「へー」

「そして君、霧賀は電車でドスンッして空中7回転半して電車の

上にコロコロコロ…ベシヤ ってなっ たんですよ」

「オイ、ちよつと面貸せ」

霧賀は自称神の顔に向かってパンチ炸裂。

パッシーンッ

「え、何、ちよつと痛いんだけど！？お母さんにも殴られた事無いのにいい」

「黙れ」

ぱっしーん

「今度は平手打ち…痛い」

「お前俺の生命で遊びやがって。」

もう一回平手が飛ぶ

「食らうかつ」

自称神は姿を変えた

「ね…猫？」

「にゃーん ってか？」

「…鰹節いるか？」

「猫言っても私はこっちが本当の姿なのだから」

そう言つて一瞬で姿を元に戻す

「ああー…」

「残念な顔しない」

「はぁーい」

うへー…としていると自称神が思い出したようにいつてきた

「んでさ、本題だけど？」

「ん？、暇潰しに俺殺されただけじゃ無いの？」

「そりゃ暇潰しで殺しまくつてたら人口少なくなるから」

「言われてみれば…」

「でさ、君にやりたい事を実行してあげるって話」

自称神がそう言えば霧賀が叫んだ

…耳がぁ…

「やっぱ、王道とつてファンタジー世界へあのトリップだろっ」

「ケツダンハエー」

自称神はそういつと目の前に小さなミニチュアの町を数個出してきた

「此処の中から好きなのえらべ。」

ぱつと見、すべてに言えるのがRPG…みたいな世界らしい

「どれでもイイネ…」

「とりあえず一番暮らしやすいのは一番右の世界だね」

「なら、それに決めた」

「ケツダンハエー」

ポーっとしている自称神

「そついや、能力的なアレはどうなってるの？」

「ああ、もちろんつけてやるよ」

「そつか…いくつ？」

「3つ…いや、オマケつきで4つ」

自称神は指を折って話していた

「んじゃ、身体能力を3倍に」

「一つ目、身体能力を三倍承知」

「後、魔法系ってどうなってる？」

「5つの属性に別れてるね 火 水 木 雷 光」

「んじゃ、属性を水に」

「属性水承知 後2つ」

「魔力地みたいなのを最大値に」

「魔力地 最大 承知 ラストどうする？」

「んー。魔法を自身でも製作できるように」

「魔法の自主制作 承知。繰り返して言うとな身体能力の三倍、魔法属性を水に、魔力地を最大、魔法自主制作：でよろしいかな」

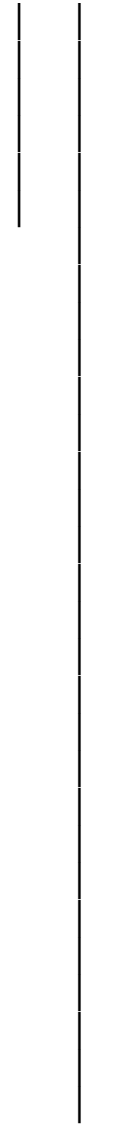
「大丈夫だ」

「それじゃ行こうか」

自称神はにつこり笑うと霧賀が持っていたミニチュアの町を取り上げて投げた。

「可の者を指定の地へ」

霧賀は何をしているんだと突っ込み…という名の張り手をしようとすると意識が途切れた



第一話「パッシーン」(後書き)

そしてトリップ先へってね。

第二話

「やあ、皆さんおひさしぶり霧賀です。」

深い森の中霧賀は座っていた

「めっちゃ道が分からない所に投げ出されマジ切れ寸前です」

コノヤロー

まあそんな事を言っても何もかも始まらないって事で、裏技使って俺が町探している時間を短縮しようか。

(1時間経過)

凄いだろっ。

…でもないか。

一時間歩き続けた霧賀はもう言葉も言わずに歩き続けていた。

(一時間半後)

「ハッ」

森が途切れたと思い目の前を見れば高い塀に囲まれた町がっ！！

「ヤッホ」

霧賀はちよつと浮かれつつ入り口を探すのであった

そして… 2人の門番に出会った

「どうもー」

「…お前だれさ」

2人の門番は顔を見合わせて霧賀の肩をつかんでいた

「霧…」

（「あーあー通信です 神様から通信です。 君の名前は霧賀ではなくて クーネル・ディアだから。」）

あー…何、今の

「お主の」

「名前を」

「「述べよ」」

「君ら門番はコントでもしているのかね… 俺の名はクーネル・ディアだ」

門番は懐からなんかメガネを出して来てソレをかけた。

「クーネルにH I T 1 0 件 細かく検索を開始… クーネル・デ
イア… H I T」

片方の門番がそういえばもう片方が

「ハイってよし」

なんて言っ て来た

（続くよ）

第二話（後書き）

続きます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5494z/>

それなら、王道らしい君の願いをかなえるよ。

2011年12月21日20時53分発行